



作業中の様子



6月7日(日)、24区公民館周りの草刈り、側溝清掃を役員で実施しました。

24区

町内美化



今年には新型コロナウイルスの感染防止の観点から区民全員参加での一斉草刈り、側溝清掃は中止とし、各人での自宅周りの草刈りをお願いしました。

24区の県営住宅では、高齢の方が多く、また、入居者も毎年減少して空き部屋があるので、部屋周りは除草剤を散布しました。

カーブミラー周りに垣根が被さっている部分は、のこぎりと高枝ばさみでカットしました。

この日は、天候にも恵まれ、熱中症に気を付けながら、3時間程の作業を無事終了することができました。

館報 はだ



令和2年7月1日現在

世帯数	6,223戸
人口	15,551人
男	7,502人
女	8,049人

波田中学校卒業30周年 同窓会開催!!

昭和から平成へと元号が変わった最初の年に私たちは波田中学校を卒業しました。「新しい時代」令和が始まった昨年夏、「波田中学校卒業30周年学年同窓会」として学年全体の同窓会を開催することになり、盛況に終える事ができました。

幹事として携わらせていただき、3割ほどの参加を見込んで計画しましたが、実際は



作業後、とてもきれいになりました

全生徒約250名の約半数、各担任の先生方も含めると120名の参加があり、参加した皆さんにはとても喜んで頂きました。参加の皆様、ご都合を合わせて参集くださり感謝しております。ありがとうございます。

開催にあたって、事前準備が必要でした。卒業生徒本人に開催案内を送付することになり、まずは所在の確認から始めることになりました。しかし、今の世の中では非常に難しいという現実を突きつけられました。電話をするとか詐欺ではないかと警戒されてしまう事もありました。当時の資料を頼りに自宅へ訪問すると、何故か同姓同名の方のお宅にたどり着いたこともあり

それでも、伺った方のご家族の協力もあり、遠方に暮らしている本人に連絡が取れた場合もありました。丁寧に対応して頂きました。

結果として、連絡の取れた方の協力やSNS等を駆使することで大半の方に開催案内を送付する事ができ、同窓会を開催することが叶いました。

私たちは、約半年ほどの準備期間で開催しましたが、か

なりの繁忙状況で実際にはもう少し期間が必要でした。仮に今年を開催年としていた場合は、新型コロナウイルス感染症の対策で一切の行事が遂行できない事態が発生し、計画自体が白紙になっていた可能性もあります。

私たちと同様に今の期間に同窓会を計画していた方々も多いはずですが、計画を推進していた幹事、会場関係者の方々そして、同窓会に集うであろう皆様のためにも早期に感染症の終息を願うばかりであります。

当日、同窓会に参加した方々からは一様に感謝の言葉を頂きました。飲食を忘れ話に花が咲いていた方も多数いました。そして、皆様笑顔で過ごして頂いた事が一番印象に残っております。

開催に関わった全ての方々に感謝申し上げます。次回の開催の際も協力して素晴らしい会を行いたいと思っています。



波多神社と氏子



数年前に波多神社(上波田)の氏子総代になったことがあります。主な仕事は神社の管理清掃、各氏子との連絡、祭事の執り行い等です。特に清掃は月に一回ほど行っていました。炎天下の夏でも、雪が降る冬でも、ほうきを持って掃き続けます。大木に囲まれた神殿は放っておけば落ち葉に埋もれて朽ちてしまいます。五百年以上の間、今の様な姿を保ち続けてきたのはこの様な氏子の地味な仕事のおかげだと思います。

祭事も大事な仕事です。祭事といえば九月にある例大祭が思い浮かびますが、それ以外にも数多くあります。一月の元旦祭、一月中旬の若年祭、交通安全祈願祭、三月中旬の祈年祭、六月中旬の末社祭、大祓祭、八月中旬の風神祭、九月の例大祭、十月の新嘗祭、十二月中旬の大祓・三宝荒神祭、十二月の徐夜祭。この様に



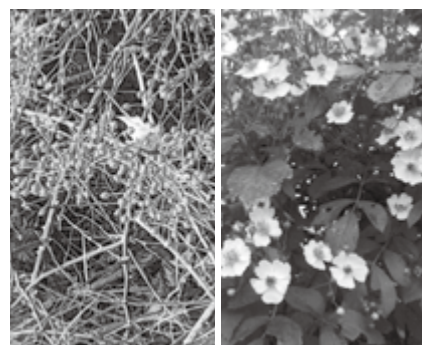
毎月のように何か祭事があります。そしてそれぞれにいろいろな意味があります。除夜祭、元旦祭は今年一年の平穏無事を祈る祭り。若年祭、交通安全祈願祭は小正月、若年を祝い繁栄を祈る祭り。交通安全を祈る祭り。祈年祭は今年一年の豊作と益々の発展を祈る祭り。末社祭・大祓祭は境内にある南北十二社の祭りと六月のみそぎ反省をする大祓の祭り。風神祭は病虫害よけと五穀豊穡を祈る祭り。例大祭は五穀豊穡をいける一番大きな祭り。新嘗祭は今年の新穀に感謝する祭り。大祓・三宝荒神祭は十二月のみそぎ、反省をする大祓祭。火の神、荒神様の祭り。この様に一つ一つの祭事に深い意味があり、今の時代にも身近な神社で神饌を供えて祝詞を奏上して世の中の平和と繁栄を祈っているのです。もし氏子総代になる機会があったなら是非経験してみると面白いと思います。

ノバラ

野山や川で遊んだ幼い記憶をお持ちの方も多いだろう。そんな時に難儀したのは藪の中で、とりわけ痛い思いをしたものは、

ノバラのトゲであった。今でこそ見る機会は減ったものの、明るい藪のあるところには、今でもノバラが多く自生していると思われる。このノバラ(又はノイバラ)は学名をRosa multiflora japonicaといって日本に自生する原種のバラである。日本には9種類の自生する原種バラがあるというが、最もポピュラーで、しかも世界に最も知られたのは、このノバラである。丈の低い藪を形成して、早いと5月の半ば過ぎには真っ白い小さな花を群がって咲かせ、まさにE pluribus unum(花という学名になった由来である。沖縄には自生しないらしいが、日本全国至る所に見られるこのノバラは、ただ困りものというわけではなく、昔から実や根などが薬として(漢方に営実とある)飲まれたり、ニモジ・はれものなどに塗ることも行われてきたという。そればかりではなく、バラの園芸においては重要な交配種として利用された。その花の多く付くところが活用され、園芸種としてはポリアンサ種とかハイブリッドポリアンサ種の親株になって重宝されており、又その丈夫な性質から他のバラの台木として多く用いられてきた。さらに詩や歌や小説の題材としても多く用いられていることは周知のとおりである。

今年2020年でも松本市街の方では5月25日過ぎには咲き始め、波田は少し寒冷なのか3、4日遅れて咲き始めた。濃い緑の葉の中に真っ白い小さな花が群がって咲いているのはあまり派手ではないので見逃されがちだが、いかにも楚々として美しい。花はあつという間に散ってしまいが、その後には小さな実が残って、これが秋になると真っ赤になり、しかも数が多いので実に見事であり、花より実の方が目立つ存在ともいえる。



秋には実が真っ赤に 白い小さな花

因みに花言葉は何だろうと花言葉辞典で確かめてみると「素朴な愛」がまず知られた言葉で、「孤独」「詩」「無意識の美」など、その目立たぬ美を表現するものとなっている。中には「痛手からの回復」というのもあって、成程と思わせるものもあった。



最近、公民館活動など町内行事の参加者が少なかつたり、次期役員選出が思う様に進まなかつたりで苦労をしている町会が増えています。なぜそうなったのでしょうか。

考えられる事として、時代が変わり、一人一人が生き生きと狭い地域を越えて行動して地域のつながりが減ってしまったのだと感じます。この地に暮らしているのだからという理由の付き合いは、若い人でなくても煩わしくなっているのでしょうか。役員選出の事にしても年功序列で受けてくれるだろうと思っても、今は年配者も仕事で忙しかつたりで受けない、引き受けても役員だけが苦労する事が目に見えている。結局敬遠されてしまっているのではないのでしょうか。今回の新型コロナウイルスの影響で町内行事は全てストップとなりましたが、住民の皆さんはその事での不便はなく暮らしているのではないかと思います。地域づくり、地域のつながり方が若い人から年配者まで皆が納得できる形でのあり方が問われているのだと私は思っています。